

LAD 本幹 Be stent 留置後の再狭窄に対して DES 留置を施行した症例。

問題点)

大きな Septal branch (SB) が Be stent 留置により 90% 狭窄を認めていた。

DES 留置の際 SB 閉塞が危惧された。BE stent に DES が overlap するため留置後閉塞した場合拾うのは非常に困難である。

実際の手技、合併症)

まず SB に Pre dilatation を行うため 2.0 mm のバルーンを使用したが通過せず Sprinter 1.5 mm を使用し通過。しかし拡張後バルーン rupture しバルーンがステントに引っかかり回収不能！強く引いたところバルーンシャフトが断裂！スネアでも回収できず最終的に Guiding を deep engage し non slip balloon を Guiding の先端で inflate し Sprinter を挟み込みシステムごと引き抜いた。

グループ内 discussion)

他の解決策として LAD 本幹へ複数のワイヤーを使用しバルーンカテに絡めて抜く方法などの意見があった。また SB への Pre dilatation についての賛否については最初からやらないという意見もあった。個人的には日常診療の実際でも可能な限り側枝を拾うように行っているため今回の症例は大変ためになった。